

## 磨丸太の概要

木材は人類の歴史と変わらぬ太古の時代から建築用材として使用されてきたものであるが、その文明の発展とともに単純な構造用材から、樹種、強度、形状等の違いを生かしたさまざまな利用の仕方が生まれてきた。

磨丸太の発祥は遠く室町時代にさかのぼり、茶道の起こりと時を同じくすると言われており、日本文化に根差した独特の利用の仕方である。

以後、武家社会の発展と茶室、数奇屋建築の隆盛とともに用途が広がっていったが、その産地としては地理的、社会的さらには気候的な要因もあり、京都北山地方を中心とした狭い地域に限られていた。

その後、奈良県の吉野地方においても林業構造の転換が見られ磨丸太が生産されるようになり、現在ではこの二大産地とその隣接産地で95%以上を生産しているものと思われる。

ただし、両産地の磨丸太生産構造には林業の発展形態の相違から大きく違いがあり、北山は主として一山皆伐方式、吉野は間伐方式が中心となっており、時代とともに変化はしているが、現在においても基本的にこの構図は続いている。

現在磨丸太の主流となっている人造絞丸太の技法は昭和初期には考案されていたと思われるが、戦後の住宅建設の増大が飛躍的な普及をもたらし、以後和風建築の床の間には磨丸太、とりわけ人絞丸太の床柱を据えるのが一般的となり今日に至っており、近年では床柱以外にも和風建築全般、さらには洋風の建築物にもその美しさを生かしてさまざまに利用されるようになっている。

京北町は北山の隣接地として古くから磨丸太原木と労働力の供給地となっていたが、町内にも生産の拠点をとの意気が揚がり、昭和52年町内の生産業者有志が大団結し、市売を中心とする磨丸太の生産協同組合を設立した。

以来、磨丸太原木の品種改良、技術開発、機械化、省力化を進めることにより品質向上と安定的供給体制を確立し、北山磨丸太の生産地として全国的にも認識されるようになり、今日ではその中心的産地としての立場を得るところとなっている。

しかしながら、一方では大手住宅建設業者のシェア増大と住宅構造の変化に伴い適材の範囲が狭まってきたばかりか、磨丸太の需要そのものに変化が起きてきており、また供給についても林業地共通の問題である後継者難や、さまざまな条件変化による原木不足にも直面しており、磨丸太業界全体の問題として将来を考えていく必要に迫られている。

京北町においては磨丸太生産は基幹産業の一翼を担う存在となっており、さらには一般木材生産や松茸等の林産物生産を含めた林業の浮沈は町自体の死活問題と捕らえ、官民一体となってあらゆる手段を講じて林業振興に取り組んでいるところである。

## 磨丸太の種類

### ◎ 磨丸太、タルキ、桁丸太

木肌の表面に凹凸や絞り模様のない通常の丸太で、年輪の細かく光沢のあるものが高級品とされる。床柱として使用する高級品から、あらゆる建築用材として使用されるので用途は広い。細径のものはタルキとなる。

☆価格の目安（長さは3mを基準とする）

高級品	中級品	下級品（床柱以外の用途が多い）
-----	-----	-----------------

5万円～10万円	2万円～5万円	5千円～2万円
----------	---------	---------

ただし、50年以上成長し、4mを越え20mくらいまでの長尺ものは桁丸太として使用され、この場合の価格は長さや太さ、形状により数万円から100万円くらいまでの幅がある。また、タルキの場合は1万円以上のものは高級品と言える。

### ◎ 人造絞丸太

木肌の表面に当木をあて成長を利用していろいろな模様をつけたもので、半年から数年をかけて作られる。現在床柱として使用される磨丸太のほとんどは人造絞丸太である。特に模様が変わったものを変絞とよんでいる。

☆価格の目安

高級品	中級品	下級品
-----	-----	-----

10万円～50万円	5万円～10万円	2万円～5万円
-----------	----------	---------

### ◎ 天然絞丸太

木肌の表面に自然に凹凸や絞り模様が入ったもので、突然変異によるものと考えられ希少価値が高い。数多くの種類があり、形態の遺伝を利用して挿し木による増殖が可能となったものもあるが、数少ないものには驚くような高額となるものもある。床柱のほか壁止めや飾り柱としても使用される。

☆価格の目安

高級品	中級品	下級品（床柱以外の用途が多い）
-----	-----	-----------------

30万円～300万円	5万円～30万円	1万円～5万円
------------	----------	---------

### ◎ 面皮柱

磨丸太の中から特に年輪の細かいものを選びチョンノと呼ばれる道具で四面を削ったもので、主に座敷回りの柱として用いられる。近年代替品として集成材の柱が安価で大量に出回っている。 ☆価格の目安 2万円～10万円

### ◎ 出節丸太

槇、桧、等の生枝のついた丸太を利用し、節あとの美しさを強調したもので主として門柱、玄関柱に使用される。 ☆価格の目安 1万円～20万円

### ◎ 錆丸太

桧、アテの木を原木として木肌に黒斑点の錆をつけ、渋味を出したもので主に数奇屋造りの造作材、茶室の柱として使用される。 ☆価格の目安 1万円～10万円

◎ 雑木類丸太

ムロ、赤松、梅、桜、香節、リョウブ、椿、栗、南天、のほかあらゆるものを利用することができるが、実際に使用するには厳しい条件があり、自然林の中から探し出すものが多く適材は少ない。床柱のほか飾り柱や壁止め、外装にも使われる。

☆価格は樹種、形態等により極端に差がある。 1万円～100万円